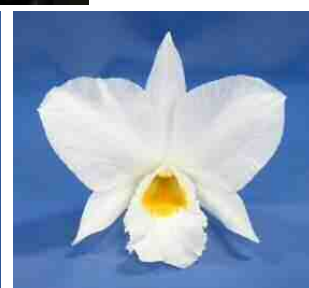
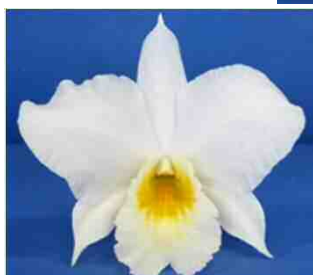


## デンドロビウム新品種「フォーミアイチ1号」及び「フォーミアイチ2号」の特性と栽培技術



愛知県農業総合試験場は、愛知県花き温室園芸組合連合会洋らん部会と共同でデンドロビウム・フォーミディブル「フォーミアイチ1号」（平成25年登録、流通名：愛彩）及び「フォーミアイチ2号」（平成26年登録、流通名：愛燦々）を開発しました。

「フォーミアイチ1号」は早生性で4月中旬から開花し、シュードバルブ（偽球茎）の伸長性が良く芳香がある品種です。

「フォーミアイチ2号」は中晩生性で5月中旬から開花し、シュードバルブが太く、生育旺盛な品種です。

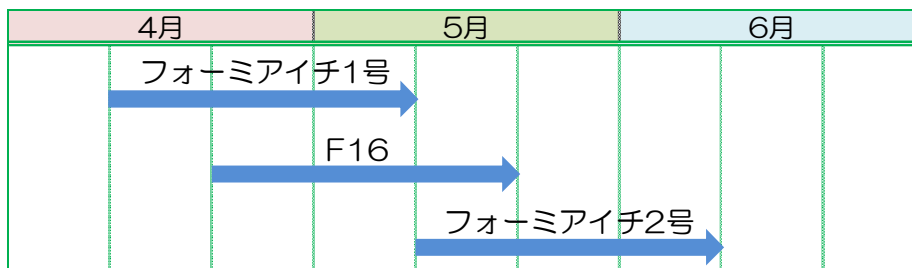
両品種ともに日持ち性が良く、母の日や父の日の需要期に出荷が可能です。

# 1 品種の特性

## (1) 在来品種との比較

項目	フォーミアイチ1号	フォーミアイチ2号	F16 (在来品種)
開花時期 (8~10℃暖房時)	4月中旬	5月中旬	4月下旬~ 5月上旬
シュードバルブの太さ	20mm程度	25mm程度	20mm程度
シュードバルブの伸長	よく伸びる	中程度	中程度
花の大きさ (縦径×横径)	約11×10cm	約11×10cm	約10×9cm
着花数	12~15輪	12~15輪	12~15輪
着花節数	3~5節	6~7節	4~6節
花弁色	白	白	白
リップの目の色	黄	黄	橙黄
香り	有り	かすかに有り	かすかに有り
観賞期間	1.5~2カ月	1.5~2カ月	1.5~2カ月

## (2) 出荷期



フォーミアイチ1号と2号の導入により長期間の出荷が可能になる。

## (3) 「フォーミアイチ1号」(流通名:愛彩)の特長

- 早生性で在来品種よりも早い4月中旬から開花する。
- シュードバルブ(偽球茎)の伸長性が良い。
- 花が大きく、花形が良い。
- 花弁色は白で、リップの目の色は黄色である。
- 芳香がある。

【品種登録】第22651号 平成25年9月26日登録

シュードバルブ

リップ



## (4) 「フォーミアイチ2号」(流通名:愛燦々)の特長

- 中晩生性で在来品種よりも遅い5月中旬から開花する。
- シュードバルブ(偽球茎)の生育が旺盛で太い。
- 花が大きく、花形が良い。
- 花弁色は白で、リップの目の色は黄色である。
- 着花節数が多い。

【品種登録】第23678号 平成26年9月24日登録



## 2 栽培管理

### 栽培暦(フォーマイチ1号、2号共通)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年次		伏せ込み				セルトレイ 植え込み						
											暖房10~15℃	
2年次		鉢上げ (2号)				置き肥		野外ほ場管理				
		暖房10~15℃									暖房8~10℃	
3年次		鉢上げ (3号)				置き肥		野外ほ場管理				
		暖房8~10℃									暖房8~10℃	
4年次					開花・出荷							
		暖房8~10℃										

#### (1) 育苗時の管理のポイント(1年次株)

- 2月頃に伏せ込み(茎伏せ、「4 安定生産のために」を参照)を行い幼苗を増殖する。
- 新芽が5cm前後まで成長したら、水苔でセルトレイに植え込む。
- セルトレイへのかん水は2日に1回程度とし、液肥(N:200ppm)を月に1回行う。
- 10月までは50%遮光を行い、葉焼けに注意する。
- 換気設定温度25℃/暖房設定温度10~15℃の温室内で管理する。

#### (2) 2~3年次株の管理のポイント

- 2~3月に鉢上げ(2号鉢、3号鉢)を行う。
- 6月に置き肥を行う。
- 梅雨明けの7月下旬から10月下旬まで遮光率50%の野外ほ場で管理する。
- かん水は春は2~3日に1回、冬は3~4日に1回、野外ほ場管理時は毎日行う。
- 開花株は、換気設定温度25℃/暖房設定温度8~10℃の温室内で花芽分化させる。

#### (3) 4年次株の管理のポイント(開花/出荷時)

- 葉色を濃くするため、2月下旬から50%遮光を行う。
- 出荷鉢に寄せ植えし、出荷する。

### 3 開花期拡大技術

#### 「フォーミイチ1号」開花前年の最終肥料の検討

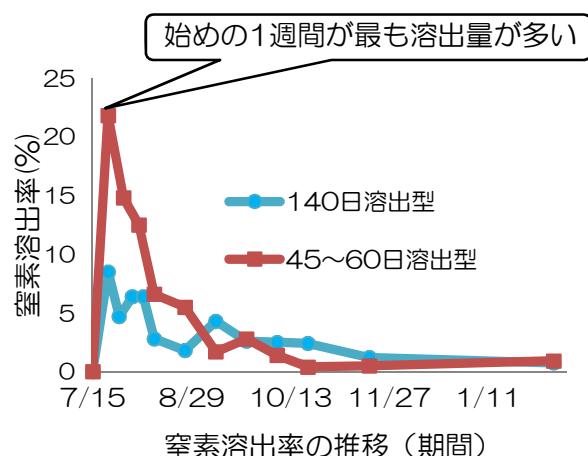
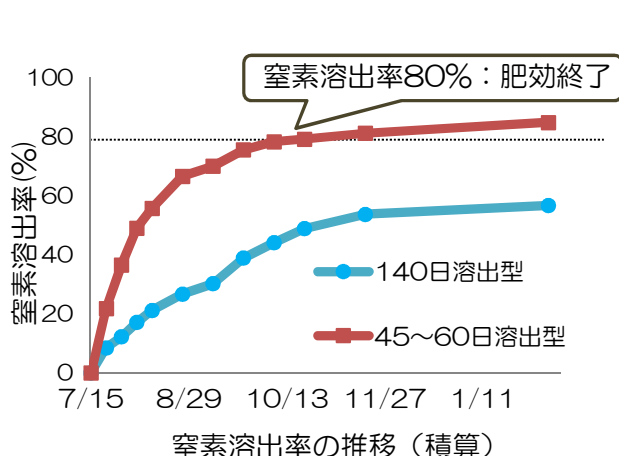
2種類の肥効調節型肥料を、開花前年の最終施肥（6月3日）に用い、開花時期に与える影響を調査した。

- ①140日溶出型の被覆肥料（N:P:K=13:11:13）3.5g/3号鉢
- ②45～60日溶出型の緩効性窒素肥料（N:P:K=8:8:8）6.0g/3号鉢

緩効性肥料の種類が「フォーミイチ1号」の生育と開花に及ぼす影響

肥料の種類	第1花の平均開花日
140日溶出型肥料	5/2
45～60日溶出型肥料	4/22

45～60日溶出型肥料を用いると、140日溶出型肥料より開花を12日早くすることができた。



※本試験では、植込み資材を詰めた3号鉢に肥料を置き、一定期間後の残存窒素量から窒素溶出率（積算及び期間）を算出した。

- 最終肥料は、「フォーミイチ1号」の栄養成長期間（6～11月頃）中に溶出が終るものを選択する。
- 45～60日溶出型肥料は、「フォーミイチ1号」の栄養成長期間中に窒素溶出が終るため、花成が促され開花時期が早まる。
- 栄養成長期間を越える窒素溶出は花成を妨げるため、施肥時期、かん水頻度、気温等を考慮して肥料を選択する。
- 気温が高い7～9月は「フォーミイチ1号」の栄養成長が特に盛んな時期であり、この時期に溶出量大きい肥料を選択するとよい。



## 4 安定生産のために

### (1) 増殖方法

#### (ア) 伏せ込み(茎伏せ)による増殖のポイント

- 水はけの良い容器に水苔等を敷き、2月頃にバックバルブ（伸長中の茎の母茎以前の世代の茎）を切り、伏せ込む。
- かん水は2～3日に1回行う。
- 新芽が5cm前後の大きさになったら、水苔で巻いてセルトレイに植え込む。
- 気温が低い時期は暖房を行うと萌芽数が増える。

伏せ込み条件の違いが「フォーミアイチ2号」の増殖に及ぼす影響

試験区	萌芽数	萌芽数/ 供試バルブ数
慣行区	52	1.24
高温区	57	1.36

伏せ込み期間：2016年4月1日～8月24日

慣行区：換気設定温度25℃/最低夜温8℃

高温区：換気設定温度33℃/最低夜温25℃



伏せ込みの様子

#### (イ) メリクロン培養による増殖のポイント

- 無菌操作により、リードバルブ（新芽）から生長点を取り出して培養する。
- フラスコ内で苗が5cm前後の大きさになったら、セルトレイに植え込む。

### (2) 生理障害・病虫害防除の留意点

- かん水・肥料過多による根腐れに注意する。
- ハダニ、アザミウマ、アブラムシなどの害虫や、細菌病、ウイルス病の発生に注意し、薬剤防除により蔓延防止に努める。
- 特に野外ほ場管理時は、害虫によるリードバルブ（新芽）の食害や雨天後の病気の発生に注意する。

## 5 利用許諾について

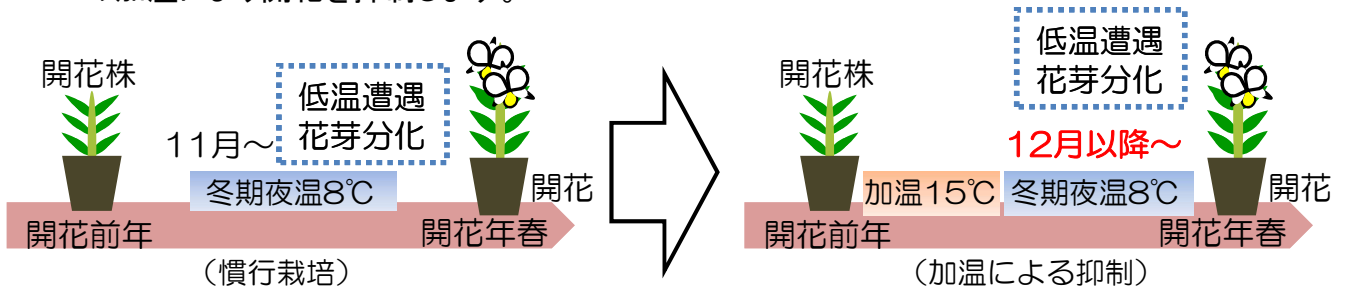
「フォーミアイチ1号」および「フォーミアイチ2号」は、愛知県と愛知県花き温室園芸組合連合会が共同育成しました。種苗法に基づく登録品種であるため、栽培には許諾契約が必要です。

連絡先：愛知県農林水産部農業経営課 TEL 052-954-6410

# 参考資料 \*\*「フォーミイチ2号」出荷時期拡大のための冬期の温度管理\*\*

## 1 加温管理

15℃の加温により開花を抑制します。



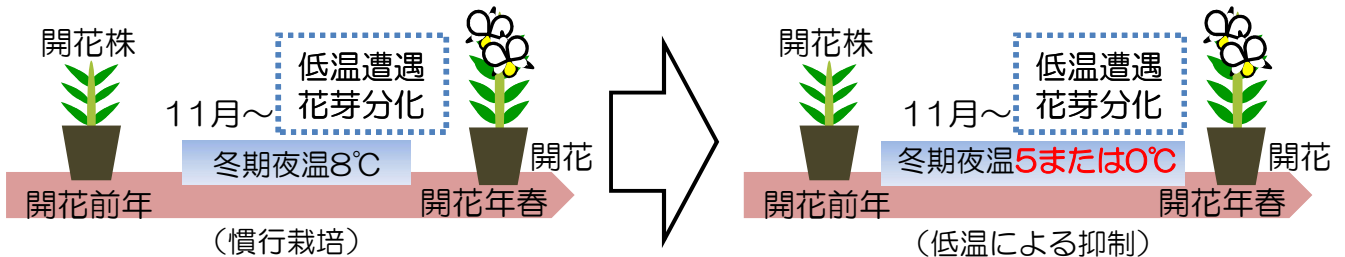
加温終了時期が「フォーミイチ2号」の生育と開花に及ぼす影響

加温終了時期	第1花の平均開花日
8℃一定（慣行）	5/12
12月上旬	5/19
1月上旬	5/21

加温終了（低温遭遇開始）を12月上旬または1月上旬にすることで、慣行に比べ開花を7～9日遅くすることができる。

## 2 低温管理

より低い温度管理で開花を抑制します。



暖房温度が「フォーミイチ2号」の生育と開花に及ぼす影響

設定温度	第1花の平均開花日
8℃（慣行）	5/22
5℃	6/4
0℃	6/6

冬の暖房設定（0℃または5℃）で、慣行に比べ開花を13～15日遅くすることができる。

（留意点）本試験における低温管理は、1.5m<sup>3</sup>の簡易チャンバーを用いて行った。0℃及び5℃はチャンバー内の設定温度であるため、実際の施設内温度とは異なる。

編集・発行 愛知県農業総合試験場

〒480-1193 長久手市岩作三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線322（企画普及部）

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi>

問い合わせ 園芸研究部・花き研究室（内線543）